

1. 釈尊の生涯

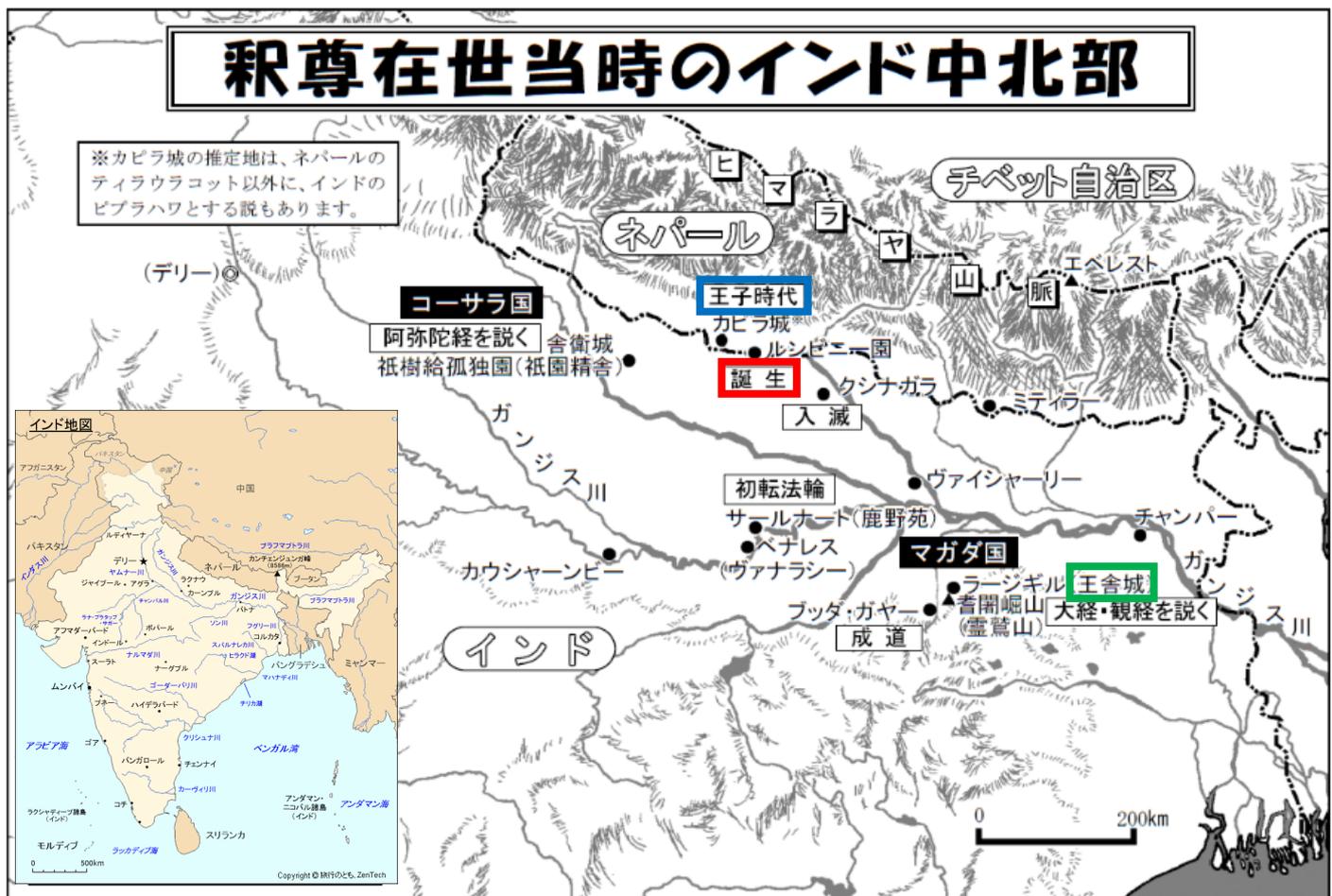
1-1 釈尊在世当時のインド中北部の状況と地図

1-1-1 時代背景

- ・ 商工業の発達と都市の成立。
- ・ 商工業の発達は貨幣経済を進展させた。
- ・ 経済的実権を握るものが社会的実力を持った。資産者が新興階級として登場。
- ・ カースト制度は緩やかであり、万能ではなかった。
- ・ 都市を中心とした小領域支配の数多くの国家にわかれていたが、やがて、これらは強大な王権の下に大国に併合されてゆく。

1-1-2 思想界の傾向

- ・ 社会の変革は思想界に新しい傾向を生み出した。
- ・ 伝統的なバラモン教に批判的な自由思想家たちの出現。(インドの諸子百家)
- ・ 輪廻思想と六師外道



1-2-1 釈尊誕生の年代

今から約2500年前。

- ・ BC.566年-486年（高楠順次郎説）
- ・ BC.463年-383年（中村元説） 現在の日本では中村説が有力。

1-2-2 釈尊誕生の場所

ルンビニーの園。 枠で囲んである所。

父：浄飯王（シュッドーダナ コーサラ国の属国である釈迦族の王 カピラ城）

母：摩耶（マーヤ 隣国コーリヤの執政官の娘）

母マーヤは出産のための里帰りの旅行中にルンビニーの園にて子を産んだ。

その子はシッダールタと名付けられた。 母マーヤは出産した7日後に死んだ。

シッダールタはマーヤの妹マハーブラジャーパティによって育てられた。

「摩耶國大夫人立地之時。童子自然從右脇出。國大夫人胸脇腰身不破不缺。」（『仏本行集経』）

「天上天下 唯我独尊」

「天上天下 唯吾獨尊 今茲而往 生分已盡」（『大唐西域記』（646年成立））

「天上天下 唯我為尊 三界皆苦 吾当安之」（『修行本起経』卷上・菩薩降身品第二）

1-2-3 釈尊が王子時代を過ごした場所

カピラ城。 枠で囲んである所。

・ 少年期の憂愁。12歳のころ、農作業を見て、虫が小鳥に啄まれるのを見た。

・ 青年期の憂愁。当時は青銅器から鉄器時代に移行する時代で、強力な鉄製武器による血生臭い闘争が起きていた時代。武力による弱肉強食の世界。

・ 結婚と長男誕生。ヤシヨーダラ姫（耶輸陀羅）を妻に迎え、ラフーラ（羅睺羅）が生まれた。

中阿含經（大正新修大藏經テキストデータベース）

T0026_.01.0776a29: 寧可求無病無上安隱涅槃。求無老無死無
T0026_.01.0776b01: 愁憂感無穢汚無上安隱涅槃耶。我時年少
T0026_.01.0776b02: 童子清淨青髮。盛年年二十九。爾時極多
T0026_.01.0776b03: 樂戲莊飾遊行。我於爾時父母啼 2 哭諸親
T0026_.01.0776b04: 不樂。我剃除鬚髮著袈裟衣。至信捨家
T0026_.01.0776b05: 無家學道。護身命清淨。護口意命清淨。我
T0026_.01.0776b06: 成就此戒身已。欲求無病無上安隱涅槃
T0026_.01.0776b07: 無老無死。無愁憂感。無穢汚無上安隱涅槃
T0026_.01.0776b08: 故。更往 3 阿羅羅 4 伽羅摩所。問曰。

出家を實行 29 歳の時。

- ・従者チャンダカと愛馬カンタカに跨って密かに城を出た。
- ・地位も名誉もすべての財産も放棄して、城を出た。
- ・郊外の川のほとりで、シッダールタは身につけていたものを脱いだ。
- ・頭を丸めて修行の道へと旅立った。

宗教は、普段の生活で私たちが見ないようにしている問題と真っすぐ向かい合うことで
す。問いを問として生きること。それが宗教的態度です。

私たちは、必ず年老い、病にかかり、そして死んでいきます。この事実は誰も違いが
ありません。しかし日頃、そんなことは意識せず、目先の幸せを追い求めています。シッダ
ールタはそのような生き方に大きな疑問を感じました。どれほど、幸福を築き上げたとし
ても、老・病・死の前ではすべてが無意味なものになってしまう。やがて崩れさってしま
うような幸福を懸命に求め、積み上げていく事が人生であるとするならば、人間は何と空
しい一生を過ごすことになるのでしょうか。シッダールタは「老・病・死」という苦悩を超
えていく道を求めて旅にでました。「老・病・死」という現実の前にも壊れてしまわないよ
うな本当の生き方を求めて、修行に向かいました。

1-2-4 釈尊が城を出て向かった先  枠で囲んである所。

王舎城（ラージャグリハ）。王舎城へ行く前にヴァイシャーリーに寄った。